

日本史選択の人は、地歴・公民の問題冊子P20（世界史B第4問のC問題）から着手しましょう。空欄補充の⑥・⑦・⑧、問6・7・8のイの問題は日本史の問題として解くことが出来ます。まだ問題を見ていない人は、いますぐ解きましょう！金石文を題材とした古代の問題で、前半は高句麗に関する基本的な内容、4世紀のヤマト政権と朝鮮半島との関係が把握できているかを問うものでした。後半は多賀城碑を題材に、やはり当時の対外関係を問うものでした。玄宗皇帝の時代の後期に、唐で安史の乱（安祿山・史思明の乱）の勃発し、渤海の勢力拡大に呼応して藤原仲麻呂が新羅へ出兵しようと計画した話は、細かい内容ですが教P45②に記載があり、私大対策としては答えられるようにしてほしい内容です。

さて本題。第1問の間1は、原始・古代の遺跡について、遺跡名・地図上の場所・遺跡の性格の3点セットでおさえおくことが大切という、原則通りの問題です。一問一答的に、単に用語を覚えるのではなく、白地図に書き込んだり表にまとめたりするなど、整理を伴って視覚的にとらえられるようにすると、類似のものを混同せず済みます。問10には「4世紀の前方後円墳」という文言がありますが、この「〇〇世紀」という感覚は、特にマーク問題を解く際に役に立ちます。古墳時代は、ざっくりと4・5・6世紀で前期・中期・後期と分け、畿内では5世紀（中期）までは竪穴式石室、6世紀（後期）に入って横穴式石室が一般化します。「〇〇世紀」は出てくる度に何度も書きましょう。書けば身に付きます。書かなければいつまでも身に付きません。

第2問の間1で、イ「君をば則ち天とす、臣をば則ち地とす」が憲法十七条の儒教的内容の部分です。ア・ウは改新の詔で、改新の詔は4つの内容に分けられます。アは4つ目、ウは1つ目の内容でした。授業プリントNo.14を見直しましょう。問4の庚寅年籍は、解説を読んで庚寅年籍との性格の違いを対比で整理しましょう。問8の平安初期の令外官は、桓武天皇の2つ・嵯峨天皇の2つでした。解説で整理しましょう。

第3問の間2で、律令制の八省は、左弁官に属する4省（中務・式部・治部・民部）の省名と職掌が一致するようにしましょう。残る4省（兵部・刑部・大蔵・宮内）は分かりますよね。問3は定番の聖武天皇の遷都シリーズです。地図中のア～エに宮都の名称を記入しましょう。併せて、飛鳥の宮（あわせて1か所としてよい）・藤原京・近江大津宮・長岡京・平安京・福原京も記入しましょう（図P65）参照。問5はリード文から弘仁・貞観文化の問題です。ア～エの写真に、名称・〇〇文化・〇〇世紀をそれぞれ記入しましょう。アは国風文化、イは弘仁・貞観文化、ウ・エは白鳳文化です。共通テスト模試の講評に書いた通り、まずはどの文化なのかを特定することが大切です。問6の前期摂関政治の政争について、授業プリントNo.29で整理済みです。表を何度も書き写して、必要な部分だけでもいいので見ずに書けるようにしましょう。用語は単発で覚えるのではなく、整理した状態にした方が頭に入ります。

第4問の間2は「つまり新補率法のこと」、問5は「つまり中先代の乱のこと」と、設問を読んでも言えるでしょうか？問2はアの選択肢に書いてありますが、実際には書かれていないことがほとんどで、自分で「つまり〇〇のこと」→「だからこれが誤り」と、自分で特定して選択肢を判断していかねばなりません（問5がこれに近い）。このような「つまり〇〇のこと」と明示せずに訊いてくる設問は近年よく見る形式です。問4について、蒙古襲来への鎌倉幕府の対応策も頻出のテーマです。異国警固番役・防塁の設置・長門探題設置・鎮西探題の設置——これらが、どこまでが北条時宗／どこからが北条貞時かを区切れますか？

最後に、政治経済で渡邊先生も書いておられますが、解説を読み込みましょう。具体的には、解説に書かれている歴史用語で、「これはどの時代の誰だったかな…?」「この寺はどの時代で、何が大事で教科書に載っているのだったか…?」といった、不確かなものがないかを確かめましょう。名前は知っているけど、それが具体的に何かは分からないという歴史用語があれば、用語集で再確認しましょう。そして、記述模試で書けなかったものは研究ノートで復習しましょう。